

# 特集展示「令和2年・3年度奉納 神宮式年遷宮奉賛美術品展」作品リスト

番号	作品名	作家名	分類	列品番号
展示室 I				
1	歌会始御題「実」	井茂圭洞	書	468
2	惶（こう）	田淵俊夫	日本画	470
3	天空の廻廊	春山文典	金工	467
4	収穫	村田省蔵	洋画	469
5	心の旅－風に祈りて－	山本眞輔	彫塑	471
6	雨に煙る五十鈴川	鈴木竹柏	日本画	315
7	望湖	中路融人	日本画	367
8	山	土屋禮一	日本画	341
9	天と地の間にて御降臨をお待ち申し上げる	長江録弥	彫塑	144
10	祈り	野々村一男	彫塑	236
11	高瀬さんの首	柳原義達	彫塑	142
12	乾漆塗立蓋物「望美（のぞみ）」	塩多慶四郎	漆芸	126
13	平文喜久盤	大場松魚	漆芸	106
14	清	古谷蒼韻	書	320
15	剛毅	上條信山	書	154
16	神霊	杉岡華邨	書	91
17	天照－アマテラス－	伊藤裕司	漆芸	425
18	天孫降臨	伊藤裕司	漆芸	428
展示室 II				
19	PANSY	斎藤 清	版画	262
20	ジョアン坐像	伊藤清永	洋画	222
21	調弦	庄司榮吉	洋画	408
22	アドレション・テンダーネス	藤森兼明	洋画	358
23	北國の少女	白鳥映雪	洋画	241
24	寒中紅梅	郷倉和子	日本画	167
25	地の祈り	秋野不矩	日本画	64
26	緑陰	藤本東一良	洋画	308
27	塔はるか	平松 讓	洋画	309
28	SUNSET (A)	斎藤 清	版画	274
29	蠟型吹分花器「溶融」	斎藤 明	金工	124
30	和銃桜文様透木釜	角谷一圭	金工	99
31	衣裳人形「伊勢の小工」	秋山信子	人形	139
32	衣裳人形「竹姫」	野口園生	人形	54
33	経錦丸帯「松竹梅」	北村武資	染織	197
34	駒塩瀬淡藍地刺繍帯「如月」	福田喜重	染織	163
35	色絵薄墨紫露草文花瓶	13代今泉今右衛門	陶芸	21
36	白磁緑釉牡丹彫文鉢	井上萬二	陶芸	159
広間・展示廊				
37	二つの帽子	圓鍔勝三	彫塑	4
38	小さなキリン	淀井敏夫	彫塑	37
39	健人	雨宮治郎	彫塑	211
40	惜秋	雨宮 淳	彫塑	318
41	有意心象	雨宮敬子	彫塑	414
42	十八カ月	松田尚之	彫塑	98

※赤字は新収蔵作品

令和二年・三年度中に奉納された  
美術・工芸作品と作家についてご紹介いたします。



てんくう かいこう  
**天空の廻廊**  
春山 文典  
1974 1974  
令和三年8月9日奉納

多くの作品が強い印象を受ける金属を扱っているものの、作家はこれまで一貫して「自然」をテーマとし、アルミニウム素材のソフトな凹凸が柔らかな雰囲気を感じさせている。木作品もアルミニウムを用い、円や曲線を多用して柔らかな、無難に鑑賞者を導出している。温感する円穴も遊び心の一つと言える。

令和元年改組第6回日展出品作。

略歴

昭和20年長野県に生まれる。44年東京藝術大学美術学部工業科卒業。通田修吉郎に師事。46年同大学院美術研究科工業専門課程修了。51年第15回日本現代工芸美術展に《時・間》で初入選。52年第9回日展に《朝の交響曲》で初入選。53年第17回日本現代工芸美術展に《四角柱・正方形》で現代工芸賞受賞。54年第18回日本現代工芸美術展に《四角柱・正方形》で現代工芸賞受賞。60年第22回日本現代工芸美術展に《無限曲》で東京都知事賞受賞。平成9年日展評議員(13年監事、19年評議員、23年理事)。12年第39回日本現代工芸美術展に《風の船》で内閣総理大臣賞受賞。第32回日展に《風の門》で文部大臣賞受賞。16年横浜美術短期大学学長(28年まで)。28年《苗の河》で日本芸術院賞受賞。令和元日本芸術院会員。4年神宮に《森の恋》奉納。



じつ じつ  
**歌会始御題「実」**  
井茂 圭嗣  
1971 1971  
令和三年2月9日奉納

令和三年2月神宮美術室にて同僚の特別展「実」歌会始御題によせて」に出品のため、特別に押差して頂いた作品。

御題「実」の本質に鑑み、簡潔で力強い筆致となっており、仕立てを御製にする事で、和風の味わいを加えている。作風右上の印章(白文捺印)は「六甲摩耶」と刻されている。「神戸の人間にとつては【六甲摩耶】は誇りだから」との事、左下の印章は「井茂雅印」(白文捺印)と「圭嗣」(朱文捺印)。

略歴

昭和11年兵庫県に生まれる。本名雅吉。29年高校在学中に書を始め、深田龍清に師事。32年京都学芸大学(現・京都教育大学)美術科(書道専攻)入学。36年第4回日展に《若山秋水の歌》で初入選。第13回毎日書道展で日賞受賞。49年日本書芸院展で大賞受賞。52年第9回日展で特選受賞。54年第11回日展で特選受賞。60年日展会員。平成元年兵庫県文化賞受賞。3年京都教育大学教授。5年第23回日展に《無常》で日展会員賞受賞。9年日展評議員。10年神戸市文化賞受賞。13年第33回日展に《清流》で内閣総理大臣賞受賞。15年《清流》で日本書藝院賞受賞。24年日本書藝院会員。25年神宮に《秀巖》、27年神宮に《國のまはらば》奉納。27年神宮美術特別展「本一歌会始御題によせて」に「かな文字について」と題して記念講演を開催。令和2年神宮に《望郷》奉納。



しゅうとく せいせき  
**収穫**  
村田 省藏  
1974 1974  
令和三年4月1日献展より奉納

卓抜な描写力と師・小糸源太郎に継えられた深い色彩を同様とする作者の作品には、美しい自然を賛美して描いた作品と、近景をクロースアップして自己の感情や思いを述べた作品とがある。晩年の稲葉米を描いた作品は後に戻すもので、木作品も稲葉米風景を描いた一点。

【去年の秋、「米年」はもつと稲葉のけをふやしますよ!】と云って別れた昔年が、三週間後に急死した。そして今年の稲葉がけはなくなっていた。米どころ新潟、瑞穂の国の風景はなくなり、淋しいゆざりである。【日展アートガイド2016】。細かい描写の中に感慨深いものが込められた作品である。

平成28年改組 新第3回日展出品作。

略歴

昭和4年石川県に生まれる。21年委員美術工芸専門学校(現・金沢美術工芸大学)予科に入学。24年第33回日光風展で初入選。26年小糸源太郎に師事。46年日展会員(平成2年評議員、18年理事、19年常務理事、22年顧問)。平成10年第30回日展に《糸のく》で内閣総理大臣賞受賞。12年金沢学院大学美術文化学部長教授(24年名誉教授)。18年前年度の日展出品作《春耕》で日本書藝院賞受賞。日本書藝院会員に就任。19年神宮に《明けの雪》奉納。23年旭日中継賞受賞。27年神宮に《雪の朝日》奉納。30年死去。



かすみ せいせき  
**霞**  
田淵 俊夫  
1971 1971  
令和三年6月1日奉納

雲海の中が白い霞が流れながら垂れて、まるで霧か煙が発生しているような光景が描かれている。近年世界規模で異常気象が発生しているが、それらの台風、赤潮、病害、地震に対して我々はただおそれるのみといった状況である。作品名の「霞」はおそれるという意味で、まことに當を得た題名であろう。作者自身は、風神雷神を自分なりに表現できないかと思っで描いたと述べている。

平成21年再興第9回日展出品作。

略歴

昭和16年東京に生まれる。36年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻に入学。40年同校同専攻を卒業。同大学院に進学(42年修了)。42年第22回春の院展で初入選。45年日本美術院院友に推荐される(57年特待、60年同人、平成8年評議員、18年理事、21年常務理事、28年理事長。平山信夫に師事。60年東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術助教授(平成7年教授、17年副学長、21年定年退職、名誉教授)。東京藝術大学教授美術調査隊に参加。平成3年在外日本美術品の保存修復の調査の赴来。5年日本調査隊のメンバー。30年「第100回展覧会」出品の《湯船》で日本書藝院賞受賞。令和元年文化功労者、入賞料に《慈恵地方風俗朝市風》を制作。4年神宮美術特別展「歌一歌会始御題によせて」に「慈の明かり」と題して記念講演を開催。



こころ たのび かぜに のりて  
**心の旅-風に折りて**  
山本 眞輔  
1974 1974  
令和四年3月31日奉納

本作品は平成29年改組 新第4回日展に出品された後、1年余り首相官邸に展示されていた。「心の旅」シリーズの1点。訪れた街や村、出会った人々、その折々の印象を内蔵家や日記文を記すように彫刻で表現したのが「心の旅」シリーズである。本作品にテーマや場所はなく、目に見えない「折り」をわたらにしたもの。

略歴

昭和11年愛知県に生まれる。学生時代に第5回日展に《朝》で初入選。41年日本影絵会(現・日本影刻会)会員(平成12年日本影刻会監事、16年理事、21年常務理事、25年理事長)。43年イタリヤ政府給費留学生としてローマ美術学校彫刻科に留学(69年帰国)。58年文部省派遣在外研究員としてイタリヤに留学(留学帰国)。61年日展会員(平成8年評議員、16年理事、21年常務理事、26年改組日展理事)。平成11年第31回日展に《森からの声》で内閣総理大臣賞。13年船渡賞。16年第35回日展出品作《生生流転》で日本書藝院賞。20年日本書藝院会員。21年神宮に《心の旅-新たな道》を奉納。28年神宮美術特別展「本一歌会始御題によせて」に《心の旅-折られた心の風》を出品後奉納。「心の旅-影刻と私の人生」と題して記念講演を開催。